

研修①

インクルーシブ教育と
特別支援教育の推進

1

インクルーシブ教育

子供たちの多様性を尊重し、障害のあるなしに関わらず、すべての子どもを包含する教育方法

インクルーシブ教育システムとは、「人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組み」

インクルーシブ教育システムにおいて必要とされること

- 障害のあるものが教育制度から排除されないこと
- 自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること
- 個人に必要な「合理的配慮」が提供されること

2006年採択 国連「障害者権利条約」 日本は2014年に批准

インクルーシブ教育システム構築のために



特別支援教育の推進が必要

共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進
2012年7月 文科省

- ▶ 個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要

→ 連続性のある「多様な学びの場」

通常学級・通級指導教室・特別支援学級・特別支援学校

「同じ場で共に学ぶこと」を目指すが、子どもが授業内容を理解し、学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に付けていけるための環境整備が必要。

特別支援教育を推進していくために。。。



共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育
システム構築のための特別支援教育の推進
2012年7月 文科省

- ➡ 就学相談・就学先決定の在り方の制度改革
- ➡ 「合理的配慮」の充実, 基礎的な環境整備
- ➡ 多様な学びの場の整備
- ➡ 学校間や関係機関との連携, 研修の充実
- ➡ 交流及び共同学習の推進

など

就学先決定の在り方の制度改革



- 本人・保護者の意見を最大限尊重し, 教育委員会等と教育的ニーズ・必要な支援について **合意形成** を行う。
- 就学後, 状況を見ながら, **柔軟な転学** ができる体制の整備
- 「教育支援委員会」への名称変更

基本的に支援学校への年度途中の転学はできない

就学先決定の参考に。。。。

鹿屋特別支援学校の対象

○ 知的発達の遅れ → 療育手帳は必ずしも必要な条件ではない!

(手帳は福祉サービス利用に使用するもの)

○ 適応行動に著しい困難性を伴う → 不適応行動を起こしている原因は?
知的障害や他の障害からくるものか?

知的特別支援学級の対象

- 同年齢の子どもに比べ、「認知や言語に関わる知的機能全般」の発達がゆっくりな子ども。
- 意思疎通に軽度の困難,生活面の支援が一部必要,社会生活への適応が困難など。

- ・知的発達の遅れがある。生活面,学習面等において個別の指導が必要。
- ・下学年の教科や特別支援学校に準じた学習を行う。
(「生活単元学習」や「自立活動」の実施)
- ・個別の学習教室(通級指導教室)ではないことの確認。



自閉症・情緒特別支援学級の対象

- 自閉スペクトラム症や選択制緘黙などの診断があり、障害等により、社会的適応に困難さ、対人関係の構築が困難な子ども。
- 知的発達の遅れがない。知的障害が併存する場合は知的支援学級。
- ADHDやLDは対象とはならないが、二次障害等で不適応行動や情緒面の課題などが見られる際は総合的な判断になるかも。

鹿屋特別支援学校高等部

- 知的障害があること。療育手帳は条件ではない。鹿児島高等特別支援学校は療育手帳があることが条件である。
- 不登校などの不適応行動の原因は？発達障害は対象とはならない。

ちなみに。。。特別支援学級在籍の子どもの進路先(19年度の参考数値)

高校 46% 特別支援学校 47% その他(通信制・就職等) 7%

「合理的配慮」の充実 → インクルDBの活用を!

(インクルーシブ教育システム構築支援データベース)

- ▶ 「合理的配慮」実践事例データベース
- ▶ インクルDBを活用した研修例
- ▶ 交流及び共同学習実践事例集



作成: 国立特別支援教育総合研究所

インクルーシブ教育システム推進のための支援ツール
→ インクルCOMPASSの活用も



9

多様な学びの場の整備

- ➡ 通常学級・通級・支援学級・支援学校の教育環境整備
- ➡ 少人数学級の実現への取組, 複数教員による指導
- ➡ 専門性のある教育支援員の活用
(特別支援教育支援員・SW・SSW・ST・OT・PT等)

など

学校間や関係機関との連携, 研修の充実

- ➡ 支援学校のセンター的機能, 関係機関の事業を利用

など



交流及び共同学習の推進



障害のある子どもと障害のない子どもが、経験を深め、社会性を養い、豊かな人間性を育むとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会となる、大きな意義を有するもの

相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育むことを目的とする**交流**の側面

教科等のねらいの達成を目的とする**共同学習**の側面

共同及び交流学習の種類①

- ➡ 学校間交流（特別支援学校と小・中学校・高校）
- ➡ 居住地校交流（特別支援学校と小・中学校）

学校間交流の様子。今年度は4年ぶりに対面での交流を実施。



共同及び交流学習の種類②

➡ 交流学級での授業



○担任間の連携。個別の指導計画に基づき、子どもが学習内容を理解し、達成感を得られるようにする。

○**障害・特性の理解**。子どもの行動を知る！
個別の支援・合理的配慮。

○**授業のユニバーサルデザイン（授業のUD化）**

○目安として、交流学級週半分未満の時間で。。。

（R2.4月に通知）

➡ 特別支援学級教室での交流（招く交流）

共同及び交流学習（交流学級での授業）

➡ 障害のある子どもへの理解と支援



知的障害の特性と支援

- 学習で得た知識や技能が断片的になりやすい。
- 学習に主体的に取り組む意欲が十分に育っていないことが多い。

- 分かりやすい指示・教材教具。
- 言葉・文字だけでなく、絵や写真等の利用、モデルの提示。
- 興味・関心の維持する時間の考慮。
- 活動の手順を分かりやすくする。
- 理解に応じて学習内容を変更・調整。
- 支援学級で取り組んでいることがいかにせるように。

共同及び交流学習（交流学級での授業）

➡ 障害のある子どもの理解と支援



自閉スペクトラム症の特性と支援

- 他者との関係構築が難しい。
- 情緒の現れ方が偏っていたり, その現れ方が激しかったりする状態を, 自分の意志ではコントロールすることが難しい。

など

- 活動の見通しをもちやすくする, 視覚的に活動を事前に知らせる。
- 活動内容の急な変更は避ける。説明必須。(変化が苦手)
- 他者の気持ち理解が難しいため, 子ども同士の関係調整をする。
- 集団参加が苦手な場合, 少人数での活動, グループニングの工夫。
- 視覚情報を活用した情報の提供を行う。
- 活動の意味理解が重要。活動予定表を活用し活動の順番を分かりやすくする。

共同及び交流学習（交流学級での授業）

障害のある子どもの理解と支援



ADHDの特性と支援

- 周りが気になって勉強に集中できない, 忘れ物が多い(不注意)
- 座って話が聞けない(多動)
- 人の話を遮って話をはじめめる, 計画的に活動できない(衝動性) など

- 聞き落とし・見落としに注意。一つのことを分かりやすく説明。
- 一つの活動を短く, 次の活動を分かりやすく。
- 指示内容は簡潔に書いて提示する。視覚的提示。
- 好ましくない行動は好ましくないと簡潔に伝え, 望ましい行動を具体的に伝える。

共同及び交流学習（交流学級での授業）

➡ 障害のある子どもへの理解と支援



ADHDの特性と支援②

- 失敗や衝動的な行動が多いが、注意・叱責を少なく、やっていることを肯定し褒め、成功体験を積む。
- 感覚の過敏性への配慮（聴覚・視覚・触覚等）
- 興味・関心をもてるよう学習の導入を工夫する。
- 活動への集中や持続が難しいため、学習内容や組み立てを工夫。動いてもよい課題も準備する。

共同及び交流学習（交流学級での授業）



授業のユニバーサルデザイン化

特別な支援が必要な子を含めて、通常学級におけるすべての子が楽しく学び合い「わかる・できる」ことを目指す授業

日本UD授業学会

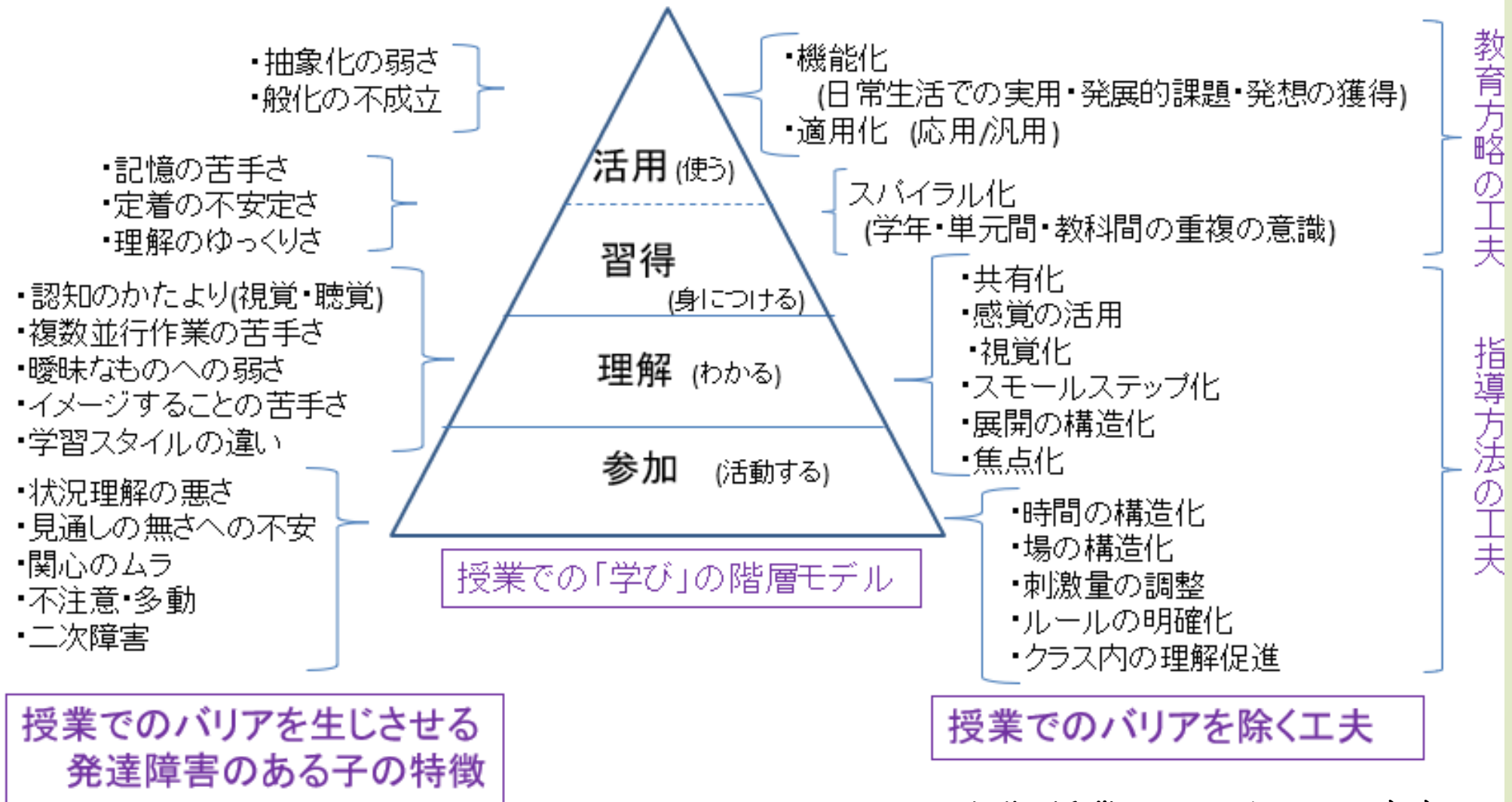


学びの階層モデルの活用を！
〈参加〉〈理解〉〈習得〉〈活用〉

ユニバーサルデザインの授業（授業UD）

17

授業のUD化モデル



ユニバーサルデザインの授業（学習環境・参加）



そのとき必要でない情報も。。。



カーテンの開閉で
情報量をコントロール



教材ボックス&手順表

今取り組むべき活動をわかりやすく、見通しももてるよう、課題ボックスを利用し、5つに分けた手順について、手順カードを引き出しに貼り、材料や道具をそれぞれの引き出しに入れて順序よく提示した。

刺激量の調整
空間・時間の構造化
学級のルール・学習のルール
クラス内の理解促進

消音効果のために、机・椅子の脚にテニスボールを付けた。
ただ、アレルギー反応に注意を!



ユニバーサルデザインの授業（理解）



視覚化

「見通し・見える化」



視覚情報の提示など

焦点化

「シンプルな構成」



授業のねらい・活動を
絞り込む

共有化

「伝える・確認」



- ・話し合う, 協力する場面の設定
- ・ペア学習やグループ学習で

スモールステップ化



課題の難易度を段階
的に調整

感覚の活用

「動作化・作業化」



書く・話す・操作する・作
るなどをバランスよく

展開の構造化



- ・授業スタイルのパターン化
- ・提示のタイミングや情報の
質や量を調整

ユニバーサルデザインの授業（習得・活用）

〈習得〉

スパイラル化（学年・単元間・教科間の重複の意識）



復習・他教科の内容との連携

〈活用〉

適用化（応用）・機能化（生活での実用）



学んだ「見方・考え方」を意図的に別単元でも生かせる
取得した知識・技能を活用, 生活に生かす



ユニバーサルデザインの授業（授業）



三段構えの指導

個に特化した支援

個への交流学級内での支援

クラス全体への支援（指導の工夫）

特別な支援 → 「ないと困る支援」
授業UD → 「あると便利で
役に立つ支援」

板書の仕方を
毎時間統一した。
↓
その時間に何を
するのか、分かりやすい！

ノートのとりを
学年で統一。書く量の
調整をしたり、ワーク
シートを貼ったりして
個にも対応した。

ユニバーサルデザインの授業（人的環境）

クラス全体の社会性を高め、子ども達が支え合い、育ち合う

- クラスの雰囲気を柔らかく。
- 「わからない」が正直に言える。
- 応援しあえる あったかクラスづくり。

など



支援が必要な子の「周りの子」へのちょっとした配慮を！ねぎらいを！
（例えば。。。）

- ・「あなたも見てるよ」が分かるような言葉掛けを。「いつもがんばっているね！」
- ・当たり前前の行動を褒める。「きょうもやってるね！」
- ・先生からの「ありがとう」を伝える。「助かった！」も。

共同及び交流学習（特別支援学級で）

▶ 特別支援学級へ招待（取組例）

- 「生活単元学習」で計画・準備した「夏祭り」に、交流学級の子どもたちが参加する。
- 特別支援学級の授業参観
- 「生活科・学校探検」で特別支援学級教室を探検。
- グループ給食（数名ずつ特別支援学級で食べる）



支援学級の子どもたちが「頑張っている姿」を見ることで、理解や啓発につなげる。

フルインクルーシブ教育の実践

- ➡ 大阪豊中市→支援学級の担任も通常学級と一緒に。TVで紹介。
- ➡ 大阪市大空小学校→映画「みんなの学校」

副学籍（二重学籍）制度の取組

- ➡ 小・中学校と特別支援学校どちらにも籍がある。地域とのつながりの維持や交流を図るもの。
- ➡ 東京や埼玉, 横浜市, 長野市, 福岡市, 竹田市など実施している自治体がある。

(例えば。。。)
・週1回交流を行う。
・小学校で朝の会をしてから特別支援学校に登校。

これからのインクルーシブ教育

22年国連の障害者権利委員会から、日本に要請

- 「障害児を分離した特別支援教育」を終わらせること
- すべての障害のある子に通常の学級を利用する機会を確保すること
- すべての障害のある子に合理的配慮を保障すること



文科省は。。。

- ➡ 特別支援と通常学級の選択の際、本人と保護者の希望を最大限尊重している。
- ➡ 「交流及び共同学習ガイド」を作成した。

現在の特別支援教育を充実させ、インクルーシブ教育を進めていく



これからのインクルーシブ教育



障害があるなしだけでなく、国籍、人種、言語、性的マイノリティー、経済状況、宗教にかかわらず、すべての子どもが共に学び合う・育つ・生活する教育へ
→ 当たり前の存在に

SDGsの考え方にも通じる

「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会実現を目指す世界目標
「目標4 質の高い教育をみんなに！」



SDGsの「誰一人取り残さない」「最も遅れているところに第一に手を伸ばす」の考え方 → 「その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる仕組みを整備する」特別支援教育。すべての子どもが同じ場で「学ぶ・分かる」ことに近づけるよう、できうる支援を継続していく！

Web・参考文献

- ・特別支援教育総合研究所インクルーシブ教育システムセンター
- ・特別支援教育のトビラ
- ・みんなの教育技術
- ・LITALICO発達障害
- ・「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」文科省
- ・「交流及び共同学習ガイド」文科省
- ・「就学・支援ガイドブック」垂水市教委
- ・ガイドブック「特別支援学級担任としてこれだけは知っておきたいこと」鹿屋市教委
- ・月刊「特別支援教育研究」東洋館出版社
- ・月刊「特別支援教育の実践情報」明治図書
- ・発達障害の子どもとあったかクラスづくり～通常の学級で無理なくできるユニバーサルデザイン～高山恵子編 明治図書
- ・「特別支援学校・特別支援学級 担任ガイドブック」
佐藤慎二著 東洋館出版社
- ・「通常学級の特別ではない支援教育～ユニバーサルデザイン・合理的配慮・校内外支援体制」 佐藤慎二著 東洋館出版社



毎週、頑張ったことを書いて貼っていく取組。
自分の、友達の頑張りが大きな花を咲かせる!